

ITU-R SG7 WP7B 会合(2026 年 3 月)

報告書(案)

1. 会合の名称

ITU-R Study Group 7(SG7)

Working Party 7B(WP7B:宇宙研究、宇宙運用及び気象衛星等の宇宙無線システムに関する作業部会)

2. 開催日程

2026年3月 2 日(月)～3月 12日(木)

3. 開催場所

スイス連邦ジュネーブ ITU 本部及びリモート会議

4. 会合の位置づけ、参加者及び入力文書

WP7B は、科学業務を扱う第 7 研究委員会(SG7)の作業部会であり、宇宙研究(SRS)、宇宙運用(SOS)、気象衛星(MetSat)等の宇宙無線システムを扱っている。

WP7B 会合は、Catherine Sham 氏(米国)が議長を務め、今会合においては、表 1 に示す Working Group(WG)が設置された。副議長は Kevin Knights 氏(オーストラリア)及び Ted Berman 氏(米国)が務める。

39 か国の主管庁、12 の ROA*や他団体及び ITU 事務局から合計 241 名が出席した。日本からは、表 2 に示す 14 名が出席した。

本会合においては、**43 件の入力文書**について審議が行われ、**計 16 件の出力文書**が作成された。

表 3 に日本寄与文書の審議結果を、表 4 にプレナリで審議された出力文書と結果一覧を示す。

表 1 WP 7B の審議体制

WP/WG/DG	検討案件	議長
WP7B Plenary	WG に割り当てられない文書、及び複数の WG で作業を分担する文書 ・ 宇宙研究通信ハンドブック ・ ITU-R 新報告草案 SA. [FUTURE LUNAR COMMUNICATION and SYSTEMS STUDY]に向けた作業文書	Catherine Sham 氏 (米国)
WG7B-1	静止衛星及び静止軌道以下の SRS 及び SOS 等 ・ WRC-27 議題 1.1, 1.2, 1.6, 1.7, 1.11 (SOS s-E 関連), 1.12, 1.13, 1.14 を含む ・ ITU-R 新勧告草案 SA.[2.0 GHz SRS & EESS CHAR] ・ ITU-R 勧告 SA.2169 改訂草案	Ted Berman 氏 (米国)
WG7B-2	WRC-27 議題 1.15 関係 (静止軌道以遠の宇宙研究業務及び宇宙運用業務等)	Kevin KNIGHTS 氏 (オーストラリア)
WG7B-3	地球探査衛星業務(EESS)及び気象衛星(MetSat)業務等 ・ WRC-27 議題 1.11 (EESS)、1.12, 1.13, 1.14, 1.17, 1.19 関連を含む ・ ITU-R 勧告 SA.514 改訂草案に向けた作業文書 ・ ITU-R 報告 SA.2488 改訂草案 ・ ITU-R 新勧告草案 SA.[EESS NGS 7-8GHZ] に向けた作業文書 ・ WRC-31 暫定議題2.10及び 2.11 関連作業	Philippe Tristant 氏 (フランス/欧州気象衛星開発機構)

※宇宙研究通信ハンドブック(Space Research Communication Handbook)の改訂作業及び ITU-R 新報告草案 SA. [FUTURE LUNAR COMMUNICATION and SYSTEMS STUDY]に向けた作業文書は、WG7B-2 の担当文書であるが、今回合会においては実質的な審議が不要であること及び WG7B-2 の作業負荷の軽減のため、プレナリレベルで実施された。

表 2 日本からの出席者(敬称略・順不同)

氏名	所属
1 糸 将之	総務省 総合通信基盤局電波部基幹・衛星移動通信課
2 飯塚 悠太	総務省 総合通信基盤局電波部基幹・衛星移動通信課
3 横山 隆裕	一般社団法人電波産業会 研究開発本部
4 橋本 昌史	国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構 周波数管理室
5 市川 麻里	国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構 周波数管理室
6 廣谷 奈々美	国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構 周波数管理室
7 岩名 泰典	国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構 周波数管理室
8 福原 好晴	国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構 周波数管理室
9 今田 紫生良	国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構 周波数管理室 (宇宙技術開発株式会社)
10 三留 隆宏	国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構 周波数管理室 (スカパーJSAT 株式会社)
11 福井 裕介	KDDI 株式会社 コア技術統括本部 技術企画本部 衛星統括部 企画 G
12 棟形 丈仁	KDDI 株式会社 先端技術統括本部 先端技術企画本部

		先端企画統括部 ジオスペースプラットフォーム G
13	片山 麻衣子	ワシントンコア L.L.C.
14	地引 史子	ワシントンコア L.L.C.

表 3 WP7B への日本寄与文書の審議結果

文書番号 7B/*	件名	担当 WG	審議結果	最終 出力文書 7B/TEMP /*
206	WRC-27 議題 1.13 に関連した WP4C 宛リエゾン文書の提案	WG7B-1	オフライン協議により伝達内容の明確化等の修正を行った上で WP4C 宛てに発出した。	89
207	新 ITU-R 報告草案 SA.[LUNAR 1.15 STUD-IES]に向けた作業文書の修正提案	WG7B-2	提案は作業文書に反映され、次回会合に持ち越し。	100
208	ITU-R 報告 SA.2488 改訂に向けた作業文書更新の提案。	WG7B-3	他の入力文書と合わせて作業文書を更新し、報告改訂草案に格上げして次回以降の作業のため持ち越すことになった。	86

5. 審議の内容

【WP7B プレナリでの審議】

Catherin Sham 氏(米国)が議長を務め、プレナリに割り振られた入力文書、各 WG からの出力文書について審議した。審議された出力文書と結果を表 4 に示す。

なお、本会合では SG7 に上程する文書(ハンドブック改訂案)1 件と、他 WP 宛てのリエゾン文書 3 件を承認した。

表 4 プレナリで審議された出力文書と結果一覧

議長報告:7B/237

文書番号 7B /TEMP/*	題目	入力文書 7B/**	審議結果
85	Working document in support of possible Report ITU-R SA.[EESS UPLINKS-23GHZ] - Potential future EESS (Earth-to-space) in the 22.55-23.15 GHz band	192 Annex 7, 224	議長報告に添付 (Annex 5)
86	Working document towards a preliminary draft revision of Report ITU-R SA.2488-0 - Characteristics to be used for assessing interference to systems operating in the Earth exploration-satellite and meteorological-satellite services, and for conducting sharing studies	192 Annex 9, 208, 212	議長報告に添付 (Annex 6)
87	Working document in support of possible Report ITU-R SA.[EESS-DOWNLINKS-37.5 TO 52.4 GHZ] - Potential future EESS (space-to-Earth) in the frequency range [37.5-52.4 GHz]	192 Annex 8, 225	議長報告に添付 (Annex 7)

文書番号 7B /TEMP/*	題目	入力文書 7B/**	審議結果
88	Working document toward a preliminary draft revision of Recommendation ITU-R SA.514-3 - Interference criteria for command and data transmission systems operating in the Earth exploration-satellite and meteorological-satellite services	192 Annex 6、217	議長報告に添付 (Annex 8)
89	Reply liaison statement to Working Party 4C concerning studies on WRC-27 agenda item 1.13	199、 206	承認 WP4C に送付
90	Proposed preliminary draft revision of Recommendation ITU-R SA.2169-0 - Technical and operational characteristics of the space operation service (SOS) systems that use the 2 025-2 110 MHz (Earth-to-space) (space-to-space) and 2 200-2 290 MHz (space-to-Earth) (space-to-space) frequency bands for use in assessing of interference and for conducting sharing studies	223、 230	議長報告に添付 (Annex 9)
91	Annex Y to Working Party 7B Chair's Report - Working document toward preliminary draft new Report ITU-R SA.[FUTURE LUNAR COMMUNICATION AND SYSTEMS STUDY] - Radiocommunication needs for future lunar vicinity activities beyond space research and consideration of associated radiocommunication services and sufficiency of existing regulatory provisions	192 Annex 4、 229	議長報告に添付 (Annex 3)
92	Proposed revision of the preliminary draft new Recommendation ITU-R SA.[2.0 GHZ SRS & EESS CHAR] - Technical and operational characteristics of the space research service and Earth exploration-satellite service systems in the 2 025-2 120 MHz frequency band to be used for assessing interference and for conducting sharing and compatibility studies	192 Annex 10、 222、 229	議長報告に添付 (Annex 10)
93	Draft reply liaison statement to ITU-R Working Party 5B - Sharing and compatibility studies between space research service (space-to-space) and radiolocation service under WRC-27 agenda item 1.15		承認。WP5B に送付
94	Working document towards a preliminary draft new Report ITU-R SA.[EESS NGS 7-8GHZ] - Evolution of earth exploration-satellite service systems in the 7 190-7 250 and 8 025-8 400 MHz frequency bands	192 Annex 5、221、 233	勧告草案に格上げ、議長報告に添付 (Annex 11)
95	Draft liaison statement to ITU-R Working Parties 3J, 4A, 4C, 5A, 5B, 5C, 5D, 7A, 7C and 7D - Progress of activities relating to WRC-27 agenda item 1.15		承認 議題 1.15 の 寄与グループ に送付
96	Draft revision of the Handbook on Space Research Communication	204、 211	承認 SG7 に上程
97	Annex xx to Working Party 7B Chairman's Report - Review of Recommendations under the purview of Working Party 7B	192 Annex 11	議長報告に添付 (Annex 12)
98	Annex n to Working Party 7B Chair's Report - Revised work plan for WRC-27 agenda item 1.15		議長報告に添付

文書番号 7B /TEMP/*	題目	入力文書 7B/**	審議結果
	and Resolution 680 (WRC-23)		(Annex 4)
99	Annex XX to Working Party 7B Chair's Report - Document towards draft CPM text for WRC-27 agenda item 1.15		議長報告に添付 (Annex 1)
100	Annex XX to Working Party 7B Chair's Report - Working document towards a preliminary draft new Report ITU-R SA.[LUNAR 1.15 STUDIES] - Sharing studies of space research systems for lunar operations under WRC-27 agenda item 1.15		議長報告に添付 (Annex 2)

【主な議論】

(1) プレナリに割り振られた入力文書

- ・ 前回 WP7B 会合議長報告(7B/192)

イランから、主に WRC-27 議題 1.15 の作業方針や CPM テキスト案の書き方に関することと、今回会合ではいかなる勧告草案の勧告案格上げも認められないとの意見表明があった他は特段の議論はなく承認された。

- ・ 外部からのリエゾン文書

➤ ITU-R の他 WP からリエゾン文書はすべて WG に割り当てられるため、プレナリで審議するリエゾン文書はなかった。

WRC-27 議題に関する立場を表明する外部機関からのリエゾン文書 2 件が紹介された。

文書番号 7B/**	送付元	件名	処理
198	ICAO	WRC-27 議題 1.15 に関する立場の表明	了知し、WG7B-2 で考慮
219	WMO	WRC-27 議題 1.7 に関連して、気象関連業務を保護するため一部周波数帯の IMT 特定に反対する意見を表明するもの。	了知された

- ・ 第 68 回 COPUOS 会合の報告

ブラジルからの寄与文書(7B/216)により、2025 年 6 月開催の第 68 回 COPUOS 会合の内容について報告された。長期的持続性 WG における宇宙状況把握専門家会合の設置、Dark and Quiet Skies の議題における天文保護と衛星コンステのバランスの検討、衛星コンステによる衝突リスクの高まり、デブリ対策の必要性などについて説明があった。特段の質疑はなく了知された。

- ・ 一時的にプレナリレベルで審議されることになった項目については、5.4 項を参照

(2) WP7B 外へ出力する文書の検討

- ・ SG7 へ上程する文書

➤ 宇宙研究通信ハンドブック(Handbook on Space Research Communication)改訂案(7B/TEMP/96)

特段の質疑はなく承認され、SG7 に上程された。

- ・ リエゾン文書

以下 3 件のリエゾン文書案が承認された。

文書番号 7B/TEMP/ **	主な 送付先	題目・内容	担当 WG
89	WP4C	WRC-27 議題 1.13 に関連した WP4C へのリエゾン文書	7B-1
93	WP5B	WRC-27 議題 1.15 に関連して SRS(s-s)と RLS の共用検討に関するリエゾン文書	7B-2
95	WP3J, 4A, 4C, 5A, 5B, 5C, 5D, 7A, 7C, 7D	WRC-27 議題 1.15 の作業の進捗を知らせるリエゾン文書。	7B-2

(3) WP7B にて更なる検討を要する文書の検討

以下の文書を議長報告書に添付し、継続審議とすることとした。

<Plenary>

- ・ ITU-R 新報告草案 ITU-R SA.[FUTURE LUNAR COMMUNICATION AND SYSTEMS STUDY]に向けた作業文書 (7B/TEMP/91)※今後は WG7B-2 で審議予定
- ・ WP7B に割り当てられた勧告のリスト(7B/TEMP/97)

<WP7B-1>

- ・ ITU-R 勧告 ITU-R SA.2169-0 改訂草案(7B/TEMP/90)
- ・ ITU-R 新勧告草案 SA.[2.0 GHZ SRS & EESS CHAR] (7B/TEMP/92)

<WP7B-2>

- ・ WRC-27 議題 1.15 及び 決議 680 (WRC-23)の作業計画の更新 (7B/TEMP/98)
- ・ WRC-27 議題 1.15 の draft CPM テキスト案に向けた文書 (7B/TEMP/99)
- ・ ITU-R 新報告草案 SA.[LUNAR 1.15 STUDIES]に向けた作業文書 (7B/TEMP/99)

<WP7B-3>

- ・ ITU-R 新報告 SA.[EESS UPLINKS-23GHZ] 作成の補助のための作業文書 (7B/TEMP/85)
- ・ ITU-R 報告 SA.2488-0 改訂草案 (7B/TEMP/86)
- ・ ITU-R 新報告 SA.[EESS-DOWNLINKS-37.5 TO 52.4 GHZ] 作成の補助のための作業文書(7B/TEMP/87)
- ・ ITU-R 勧告 SA.514-3 改訂草案に向けた作業文書(7B/TEMP/88)
- ・ ITU-R 新勧告草案 SA.[EESS NGS 7-8GHZ](作業文書から草案に格上げすることで合意)

(4) 次回会合の日程

2026 年 9 月 14～24 日(ジュネーブ)

以下に各 WG の審議内容を報告する

5.1. 静止衛星及び静止軌道以下の SRS 及び SOS 等

WG7B-1 において議論された。Ted Berman 氏(米国)が議長を務め、静止衛星及び静止軌道以下の SRS 及び SOS 等に関する内容について審議した。

【主な検討案件と審議結果】

1. ITU-R 新勧告草案 SA.[2.0 GHz SRS & EESS CHAR]を更新した。
2. ITU-R 勧告 SA.2169 改訂作業の開始で合意し、勧告改訂草案を作成した。
3. WRC-27 議題 1.13 に関連した WP4C 宛てリエゾン文書を作成し、送付した。
4. WG7B-1 が担当する ITU-R 勧告と研究課題のリストを確認し、情報を更新した。

5.1.1. ITU-R 新勧告草案 SA.[2.0 GHz SRS & EESS CHAR]

入力文書: 7B/192 Annex 10(WP7B 議長)、222(ESA)、229(米国)

出力文書: 7B/TEMP/92

- ITU-R 新勧告草案 SA.[2.0 GHz SRS&EESS CHAR]は、2025-2120 MHz 帯(地球から宇宙)に分配されている SRS と EESS の技術運用特性をまとめた勧告として策定が進められている。
- 2025 年 9 月会合では、同じく 2GHz 帯の SOS システムの技術運用特性を含む ITU-R 勧告 SA. 2169((干渉の評価と共用検討に使用するための 2025～2110 MHz (地球から宇宙)(宇宙から宇宙)及び 2200～2290 MHz (宇宙から地球)(宇宙から宇宙)の周波数帯で運用される SOS システムの技術運用特性))、及び様々な周波数帯で運用される EESS システムの技術特性をまとめた ITU-R 報告 SA.2488(EESS 業務および MetSat 業務において運用されるシステムへの干渉を評価し、また周波数共有に関する検討を行うために用いるべき特性)との区別を明確にすべきであること、及び同一のシステムが複数の勧告に掲載されているといった課題が指摘されたことから、同会合での新勧告案への格上げは見送られ、他の関連文書との統合や整理を含めた対応を検討することになった。
- 今回会合では、ESA(7B/222)及び米国(7B/229)から、議長報告に添付された同勧告草案(7B/192 Annex 10)への修正案が提出された。
 - ESA の提案は、ITU-R 勧告 SA.2169 及び ITU-R 報告 SA.2488 と区別し、EESS と SRS(近宇宙)のみとすることを目的に、①既に ITU-R 勧告 SA.1014 にてカバーされている深宇宙帯域を対象外とする、② Table 1 に掲載されている各システムの提供者に対して、テレメトリ、トラッキングとコントロール(TT&C)に関する特性は本勧告からは削除し、ITU-R 勧告 SA.2169 に移動させることを提案する、③ S 帯月データ中継に関する特性情報を掲載することについての

必要性の有無について検討する、④地球局の詳細な所在地を削除する、という提案に加え、SRS/EESS の 2200-2290 MHz 帯(宇宙から地球)について扱う新たな勧告を作成する必要性についても提案する内容であった。

- 米国の提案は、すでに入力されている米国のシステムに関する運用諸元を見直し、TT&Cに関する運用諸元を ITU-R 勧告 SA.2169 へ移動するとともに、新たなシステムの運用諸元を追記する内容であった。なお、米国の寄与文書で追加が提案されていた System A1¹について、ロシアから同システムがロシアのシステムであり、SOS に属するシステムであるため本勧告への追加は適切ではないとの指摘があった。米国は特に反対はなくこの提案は削除することとなった。
- TT&C を本勧告草案から削除する提案について、我が国からはITU-R 勧告 SA.363(宇宙アプリケーションと気象)の recommends 4 によれば、EESSなどの業務についてはデータ伝送または通信に使用されるミッション帯域内の周波数をTT&C用途に優先的に使用すべきであり、これが実行不可能な場合にはSOSに特に割り当てられた周波数帯を使用することになっていることなどから、本勧告から完全に削除することに懸念を表明した。ESAからは、内容の簡素化を目指した提案であるため、完全な削除ではなく別文書の参照という形で残す案が提案された。
- 2 件の寄与文書を統合し、上記の懸念も含めて ESA が主導したオフライングループで、米国、日本、ブラジル、カナダなどが参加して議論が行われた。以下の通りの結論となった。
 - ◇ 深宇宙帯域を本勧告から削除するとの提案については、ITU-R 勧告 SA.1014 の改訂作業が煩雑になることが予想されるため、本勧告に含めることとし、勧告のタイトルにも EESS と分離して周波数帯を明記することにした。
 - ◇ S 帯月データ中継に関する特性情報を記載するかどうかについて、今回は実際に追記すべき情報を含む寄与文書もないため、次回会合への寄与文書を待ってから判断することとし、この旨を Editor's Note を追加した。
 - ◇ Annex 部には、本勧告に含めるべきシステムについての議論を反映した新たな Editor's Note を追加し、既存の Editor's Note はすべて削除された。新たな Editor's Note の概要は次の通り。
 - 本項は SRS および EESS データリンク特性のみを対象とする。
 - 2025～2110 MHz の TT&C リンクは、宇宙機およびパイロードコマンドを含めて ITU-R 勧告 SA.2169 で扱われている。表 1 を確認し、テレコマンドやトラッキングリンクがあれば ITU-R 勧告 SA.2169 に移動する提案を 2026 年 9 月の WP7B 会議で提出してほしい。
- オフラインセッションでは、掲載されている類似のシステムをできる限り統合する試みが行われた。我が国からは表 1(地球から宇宙)に掲載されたシステムのうち、日本が提案していた I から L までを削除することを提案した。これらのシステムは ITU-R 勧告 SA.2169 と重複しており、今回会合における議論を経て、我が国の懸念(SOS と EESS/SRS(特に TT&C)との関係)が解消されたことを説明し、削除で合意した。審議の結果、最終的に、システム数は 13 から 7 に圧縮され、一般化のため地球局の

¹ 当該システムは ITU-R 勧告 SA.2169 に含まれているものであり、米国の提案はそれを削除し(7B/230)、本新勧告に追加する提案であった。この訂正に伴い、7B/230 に含まれる削除の提案も取り下げられた。次項目を参照。

所在地については削除することで合意した。

- ESA が提起していた SRS/EESS の 2200-2290MHz 帯(宇宙から地球)については本勧告には掲載せず、別の勧告とする必要性の認識で一致したが本文中には記載せず、WP7B 議長の会合報告に記載することで合意した。

<審議結果>

- 2 件の寄与文書を反映させた文書を作成し、勧告改訂草案のステータスで議長報告に添付し、持ち越すことで合意した(7B/TEMP/92)。

5.1.2. ITU-R 勧告 SA.2169 の改訂提案

入力文書: 7B/223(ESA)、230(米国)

出力文書: 7B/TEMP/90

- ITU-R 勧告 SA.2169(干渉の評価と共用検討に使用するための 2025~2110 MHz (地球から宇宙)(宇宙から宇宙)及び 2200~2290 MHz (宇宙から地球)(宇宙から宇宙)の周波数帯で運用される宇宙運用業務(SOS)システムの技術運用特性)は、2025 年 6 月に新勧告として承認されたITU-R 勧告である。
- 同じく 2GHz 帯の SRS と EESS の技術運用特性を扱う ITU-R 新勧告草案 SA.[2.0 GHz SRS & EESS CHAR]の作業を進める中で、内容の整理が必要であることが認識されたことから、今回会合では ESA(7B/223)及び米国(7B/230)から、同勧告の改訂を提案する寄与文書が提出された。
 - ESA は、新たに 3 つのSOSシステムの特性情報の追加を提案した。
 - 米国は ITU-R 勧告草案 SA.[2.0 GHz SRS&EESS CHAR]に入力されている運用諸元のうち、TT & Cに関する運用諸元を移動することを提案した。(この際、TT & C としては帯域幅が広過ぎる System C の削除を提案していたが、System C については7B/229 に含まれる System A1 と同システムで、誤って移動が提案されたものであるとの指摘があったため、提案のこの部分については取り下げられた。
- システムの整理を進めた結果、表に掲載されたシステム名のアルファベットが変更され、現行版では対応していた同名の宇宙局と地球局が必ずしも対応するペアではなくなったことが問題視された。混同を避けるため Table 3 と Table 4 で用いる記号が重複しないよう修正するように修正した上で、勧告の利用者の混乱を防ぐため、冒頭の Summary of revision にシステムへの記号割振りを修正したことを明記することになった。
- 我が国から、本 ITU-R 勧告は前述の通り 2025 年 6 月に新たに発行されたばかりであるため、少なくとも 2 年が経過した 2027 年の改訂とすべきであるとの意見を述べ、了知された。

<審議結果>

- 2 件の寄与文書を反映させた文書を作成し、勧告改訂草案のステータスで議長報告に添付し、持ち越すことで合意した(7B/TEMP/90)。

5.1.3. WRC-27 議題 1.13(地上 IMT 補完のための移動衛星への追加分配)関係

入力文書: 7B/199(WP4C)、206(日本)

出力文書：7B/TEMP/89

- 本 WP が寄与グループとなっている WRC-27 議題 1.13 に関連し、2025 年 9 月会合では、以前のリエゾン文書で提供済みの情報の訂正(System F の高度の修正)及び、同議題のための共用検討に関する新報告草案に向けた作業文書(4C/356 Annex 7)に含まれる System 3 にパラメータを追加することを求める内容のリエゾン文書を提案し、責任グループである WP4C に送付した。
- 同リエゾン文書に対し、今回 WP7B 会合には WP4C から前回送付したリエゾン文書への返答として、通知した技術情報の修正を受け入れたことを確認するとともに、DC-MSS-IMT システム 3 の不要放射の e.i.r.p.密度導出式については引き続き検討中である旨を伝えるリエゾン文書(7B/199)が送付された。
- 我が国からは返答リエゾン文書案(7B/206)を提出した。主な内容は、WP7B として以下の二点を WP4C に要請するものであった。
 - 2110MHz 以上の DC-MSS-IMT(宇宙-地球間)の不要放射による干渉レベルが ITU-R 勧告 SA.1155 で示される保護基準を超過するとみられるため、CPM テキスト案の策定においては 2025~2110MHz 帯における SRS(宇宙から宇宙)の保護を確保しつつ、当該議題項目を満たす方法を慎重に検討するよう要請する
 - 2025~2110MHz 帯における SRS(宇宙から宇宙)の保護という WP7B の視点を考慮し、WRC-27 議題項目 1.13 に関する CPM テキスト案が最終決定される前に、WP7B がこれを検討する機会を WP4C に提供するよう要請する。
- この提案に対し、米国からはいずれの要望も寄与グループとしては行き過ぎであり、リエゾン文書自体が不要であるとの認識であるが、送付するのであれば謝意を述べ、現状を理解したとの儀礼的内容とすべきとの意見が述べられた。これに対し、韓国からは WP4C における議論を見るに SRS に関連した日本の懸念は理解できるとして、書きぶりをより具体的ににするなどの修正を行うことが提案されたため、米国、日本、韓国らの間でメールによるオフライン協議が行われ、次の内容のリエゾン文書案で合意した。
 - WP4C にリエゾン文書の受領と諸元の修正を確認したことを伝える
 - 共用検討の作業文書を確認し、2025~2110MHz で運用される SRS(宇宙から宇宙)の保護について、System 3 の不要放射の eirp 密度については現在 WP4C で議論中であることを把握し、新たな情報があれば知らせてほしいことを伝える。
 - 他種類の DC-MSS-IMT システムと SRS(宇宙から宇宙)に関連する両立性検討結果についての最新情報についても関心があることを伝える。
 - 今後も情報の更新について知らせてくれるよう依頼する。

<審議結果>

- WG で合意されたリエゾン文書案はプレナリでも特段の修正はなく承認され、WP4C 宛てに送付された(7B/TEMP/89)。

5.1.4. WG7B-1 が担当する ITU-R 勧告の見直し

入力文書：7B/192 Annex 11(WP7B 議長)

出力文書：7B/TEMP/97 ※全 WG の結果を合わせたもの

- 各 WP が管理している ITU-R 勧告の現状について、毎回の会合で見直しを行うことが要請されている。勧告の改訂や廃止の作業の開始には寄与文書が必要であるため、この作業の目的は改訂・廃止の作業をこの場で決めるということではなく、現在の状況を確認したうえで、今後の寄与文書作成に活用するためであるとの説明があった。
- 本 WG に割り当てられた研究課題、勧告等のステータスを確認し、次の修正を行った。
 - ITU-R 勧告 SA.363-5(宇宙運用システム):「ITU-R 勧告 SA.2169 に関する作業を考慮して更新の必要性を検討する」とされていたところ、「現状では修正の必要なし」に修正
 - ITU-R 勧告 SA.1414-2(データ中継衛星システム):本文書については 2026 年 3 月会合で ITU-R 新勧告草案[2.0 SRS & EESS CHAR]の月データ中継の特性に関連して議論されたことを追記
 - その他、対応済みなどにより不要となった記載の削除や改訂作業中の文書にはその旨を追加した。

<審議結果>

- 他 WG の結果と統合し、議長報告に添付して持ち越された(7B/TEMP/97)

5.2. WRC-27 議題 1.15 (静止軌道以遠の宇宙研究業務及び宇宙運用業務等)関係

WG 7B-2 にて議論され、Kevin KNIGHTS 氏(オーストラリア)が議長を務め、以下に示す検討案件について審議した。

【主な検討案件と審議結果】

1. WRC-27 議題 1.15 に関する活動計画案の更新を審議し、議長報告書へ添付されることとなった。(7B/TEMP/98)
2. WRC-27 議題 1.15 に基づく研究のために他の作業部会から受領したリエゾン文書が了知され、WP5B へのみ返答リエゾン文書が作成された。
3. ITU-R 新報告草案 SA[LUNAR 1.15 STUDIES] に向けた作業文書の更新を審議し、議長報告書に添付されることとなった。(7B/TEMP/100)
4. WRC-27 会合のための議題 1.15 の CPM テキスト案に向けた作業文書の更新を審議し、議長報告に添付されることとなった。(7B/TEMP/99)
5. 各寄与作業部会への WRC-27 議題 1.15 に基づく活動の進捗状況の連絡を本議題の各寄与作業部会にリエゾン文書を送付することとなった。(7B/TEMP/95)
6. WG 7B-2 に割り振られた ITU-R 勧告 SA シリーズの状況及び ITU-R 研究課題の状況を確認した。

5.2.1. WRC-27 議題 1.15 に関する活動計画案

入力文書: 7B/192 ANNEX 3(WP 7B 議長)

出力文書: 7B/TEMP/98

- 決議第 680(WRC-23)に基づく WRC-27 議題 1.15 に関する活動計画案(7B/150 ANNEX 3)の更新を審議し、WP 7B 会合の議長報告書に添付すること

で、更新した活動計画案(7B/TEMP/79)を WP 7B プレナリに上程した。

<審議結果>

WRC-27 議題 1.15 に関する活動計画案が更新された。議長報告に添付し、次回の会合以降も引き続き更新していく。

5.2.2. WRC-27 議題 1.15 に基づく研究のために他の作業部会から受領したリエゾン文書の確認

入力文書: 7B/193 (WP 7D)、7B/196 (WP 4C)、7B/210 (India)、
7B/198 (ICAO)、7B/200 (WP 4A)、7B/201 (WP 5C)、
7B/202(WP 5B)

出力文書: 7B/TEMP/93

- 7B/196(WP 4C)、7B/210(India)
 - 米国よりインドに対して、無線測位衛星業務(RDSS)の情報は、現段階での入力
は共用・両立性検討に利用するには遅すぎるどころ、インドにおいてこのリエゾン
文書の情報を活用して共用・両立性検討を行うのかについて質問があり、インド
より本年 9 月の会合において、検討結果を入力する旨の発言がなされた。
 - 日本より、インドが WP7B の 9 月会合に検討結果を入力したとしても、使用す
る ITU-R 勧告などの議論が WP4C で行われていない状態での入力となると
指摘した。
- 7B/193(WP 7D)
 - イランより「閾値は、ITU-R 勧告にあるはずであり、ITU-R 勧告に規定のない値
は保護が Mandatory であるわけではなく、Optional であるとの言及があっ
た。
- 7B/198(ICA0)
 - イランより、本文書はImplementableではない上、対象となっている周波数帯
はICA0ではなく、WP5Bのmatterであるため、単にNoteするのみでAction
は必要ないとの意見があった。
- 7B/200(WP 4A)
 - ロシアより、これまでWP4AからWP7Bに対して提供がなされていなかった、C
バンドを使用するFSSシステムで検討に入れるべきものがあったため、作成した
旨について説明がなされた。
 - イランより、議題 1.15 の対象周波数でWP4Aに関係する周波数帯は保護が必
要であること、少なくとも規制上の解決を行うべきであり、この周波数帯をN. I.
Bとするべきことなどが述べられた。また、イランからは、この周波数帯はIMTで
もBSSでも使用されているため、「shall not claim protection」、「shall
not cause harmful interference」といった内容を regulatory text に
入れるべきであるとの言及があった。
 - WG-7B2 議長よりWP4Aに対する回答リエゾン文書を作成すべきとの発言が
あったものの、その後のセッションにて、オフライン議論の結果、WP4A のリエゾ
ン文書の作成は不要となったことが報告された。
- 7B/201(5C)

- イランより本文書のパラグラフ2は事実ではなく、general に分配があり、ほとんどが脚注分配であることに言及された。
- 米国より、議題 1.15 の共用・両立性検討に関する ITU-R 報告に、これらのリエゾン文書の内容について、Note として記載を入れる旨の発言があった。
- 7B/202(5B)
 - ロシアより説明が行われ、無線測位業務の無線局に関するパラメータは MIFR (国際周波数登録原簿) 及び ITU-R 勧告 M.1462-1 を参照してほしいこと、また、I/N=-6dB のクライテリアが適用できない場合があることについて言及された。
 - イランより、MIFR のデータを使用できることを求める発言及び本リエゾン文書に記載がされている「without imposing additional constraints on their operations」という文言の削除が求められた。
- 7B/193(WP 7D)
 - 南アフリカより、月の遮蔽領域(SZM)の電波天文に対する干渉の閾値に関する WP7D から WP7B へのリエゾン文書(7B/193)の説明があった。
 - イランより、本リエゾン文書において、WP7DはWP7Bに対して、月の電波天文への有害な干渉に関する閾値を計算するよう要請しているが、これはWP7Dが実施すべきことであり、WP7B が実施しなければならないものではない旨の指摘がなされた。
 - 米国からもイランに賛同のコメントがあり、WP7B が閾値を計算する必要はなく、また本リエゾン文書では、どの周波数帯が対象となっているのかが明確ではないことも指摘された。
 - イランより「status」の箇所に「For information」との記載があるため、特に Action は必要ない上、study については、既存業務である電波天文業務側が実施すべきとの発言があった。

<審議結果>

WP5B への返答リエゾン文書が作成された。その他のリエゾン文書は上記の議論があったのみで、了知された。

5.2.2.1. WRC-27 議題 1.15 と議題 1.11 及び議題 1.13 にて重複している検討対象周波数の検討

入力文書： 7B/197(WP 4C)

出力文書： なし

<審議結果>

当該返答リエゾン文書は了知された。

5.2.2.2. WRC-27 議題 1.15 と議題 1.7 にて重複している検討対象周波数の検討

入力文書： 7B/209(韓国)

出力文書：なし

- 韓国は、共用検討結果を WP 5D へ返信リエゾン文書として送付することを提案したが、米国は、これまで両作業部会で技術検討を交換してきていることを指摘し、返信リエゾン文書の送付に反対。

<審議結果>

関係する全作業部会に、全般的な連絡文書として共用検討結果を送付することとなり、WP5D への個別の返答リエゾン文書は送付しないこととなった。

5.2.3. ITU-R 新報告草案 SA.[LUNAR 1.15 STUDIES] に向けた作業文書の作成

入力文書： 7B/192 ANNEX 1(WP 7B 議長)、7B/205(中国)、7B/207(日本)、7B/213(ロシア)、7B/214(ロシア)、7B/218(CRAF)、7B/226(カナダ)、7B/227(フランス)、7B/232(米国)

出力文書： 7B/TEMP/100

① 寄与文書紹介

- 7B/205(改訂版)(中国)
 - 提出期限までに入力された文書ではなく、電子メールにて提出された改訂版が紹介された。中国の検討結果についてであり、他主管庁の検討に影響するものではないとの説明があり、異議なく改訂版を取り扱うこととなった。
 - 米国は、初版から大幅に変更されているため、確認に時間が必要であることを通知
- 7B/207(日本)
 - 韓国は、固定業務(FS)への単一干渉にて 16.9 dB のマージンがあり、48 の月軌道の宇宙研究業務の総合干渉でも保護基準を満たすとする結論について、日本に説明を求めた。日本から韓国へはオフラインにて回答された。
- 7B/213(ロシア)
 - FS への干渉解析について、単一干渉で総合干渉の解析の計画はなし。
 - 米国は、10 秒間隔では peak が漏れる可能性を指摘。ロシアは、更なる短時間間隔での解析で解析結果が変わったら検討結果を更新
- 7B/214(ロシア)
 - 米国は、無線標定業務への干渉解析結果について、静的解析であるところ、大きな干渉であることから動的解析による時間率が有用であることを指摘。ロシアは、現時点で動的解析の予定なし。ただし、更なる議論の余地あり。
- 7B/226(カナダ)
 - フランスが、COSPAS-SARSAT への干渉解析結果について、最悪ケースでの静的解析にて非常に小さいマージンであることから、動的解析が望ましいことを指摘

- 7B/232(米国)

- 日本から、次のように質問があった。2690-2700 MHz の RAS との干渉検討に関して、「同一帯域内における更なる共用検討を要する」との note があるが、議題 1.15 の検討対象帯域との同一帯域内に RAS の分配がないのに関わらず共用検討を要するのはなぜか。また、当該帯域は SZM 外での電波発射制限対象外ではないか。

米国は、WP7D から要請があったため、実施することとしており、WP7D との合同会議にて WP7D へ確認することができると回答した。

- 日本から、次のように質問があった。2483.5—2500MHz の RDSS の諸元は WP4C から提供されていないが、情報源泉はどこか。インドからも諸元が提供されているが、取り扱いはどうのように考えるか。

米国は、WRC23 の議題 1.7 の検討内容から引用している。インドの諸元を利用して解析することは可能であると回答した。

インドから、提供した諸元を利用した研究結果を次回会合にて入力する予定であることが説明された。

- 7B/218(CRAF)

- イランより、最も保守的かつワーストケースとはどういうことなのか、どのような状況であるのか、また十分な情報がないとはどういうことなのかという疑義が呈されるとともに、他の文書と同様にさらなる確認、情報が必要であり、現段階では賛同しかねることが表明され、さらに、ITU における共用・両立性検討はワーストケースで行うものであること、現段階では本文書は十分ではないとの意見があった。

- 米国からは、望ましい共用・両立性検討の条件が示されていることが指摘されるとともに、SZM での 2.5GHz 帯、400MHz 帯における RAS の運用への影響がどの程度あるのか、比較するのは現行の運用とであるのか、意図しない影響があるのかについて疑問が示された。さらに米国からは、unintended electromagnetic radiation (UEMR)については、WP7D に専門家はいないため、SG1 に従うべきであり、WP7D から WP1A に対してリエゾン文書を発出し、月の遮蔽領域における電磁場の状況について、情報提供を依頼すべきこと、また、UEMR については共用・両立性検討とは別に取り扱うべきとの意見があり、必要とあれば CRAF とオフラインで議論したいとの言及があった。

- ロシアからは、(a)米国の指摘のとおり、CRAF の文書は電磁場における両立性、特に考える UEMR の制限値に関する検討を含んでいるが、このような事項は議題 1.15 に関する検討のみに関係するものではない上、既存及び計画中的 SRS に分配された周波数を利用するミッションも RAS 保護のための UEMR 制限値は課されていない。そのため、UEMR での観点での検討は否定しないが、別の場で検討すべきこと、例えば WP7D の場で WP1A の協力を得つつ行い、

別途報告を作成すればよいこと、(b)CRAF の検討ではいくつかの周波数帯、特に X バンドである 7GHz 帯についても実施されているが、X 帯はすでに SRS に分配されている周波数帯を含んでいるため、インバンドでの両立性に関する検討は必要ないと思われることに言及されるとともに、(c)動的解析へのアプローチについては、解析を行う前に原則について合意をしておくべきであり、WP7D は保護基準を提供しており、センサの integration time も提示されているが、これは地球上の RAS 局よりも長いものとなっているところ、これを同一周波数帯に適用すると、議題 1.15 については全て No Change になってしまい、SRS (宇宙から宇宙)は月域では使用できなくなるため、本件についてどうするべきか何らかの合意が必要である、ことについて意見がなされた。

- 日本より、(a)米国とロシアと同様の意見であり、共用・両立性検討に関する文書に CRAF が提案するような検討を含める必要はないと考えられること、(b)議題 1.15 に関する WRC 決議 680 では、2.4GHz 帯については、SZM での保護の対象周波数帯ではない旨が明記されており、電波天文業務の保護基準については無線通信規則第 22 条が適用されるため、特段の問題はないこと、(c)そのため、CRAF の検討があったとしても、2.4GHz帯をSRIに分配することに障害がないと思われること、(d)さらに、2.4GHz 帯については Lunar PNT のみで使用され、かつLunar PNTが運用される場所を考えると、電波天文にとっても有益であること、(e)また、本件については来週開催予定であるWP7BとWP7Dの合同セッションで議論される予定であるため、本件についてWG7B-2 でこれ以上議論する必要はないこと、について発言がなされた。
- 7B/227(フランス)
 - イランより、(a)非常に量の多い文書であり、様々な点に触れられていることが言及されているが、月における地形データについては検討がないことが指摘されるとともに、(b)mitigation techniques(干渉軽減策)について、Ground Station と User Equipment それぞれでどの程度なのか、mitigation のために必要な距離はどのくらいなのかについて質問があった。
 - また、イランより、共用・両立性検討の比較表を入れるべきこと、表記ミの指摘、共用・両立性検討に関する文書をどのように取り扱うべきか決定する必要があること、WRC-19 及び WRC-23 においては、WRCで賛同が得られれば、本文書はCPMテキストを補助する文書となることについて述べられた。
 - フランスより、(a)文書中にWP3Jからの情報が示されていること、(b)電波天文業務との共用・両立性検討にあたっては、ITU-R 勧告が使用されており、これは米国と同様であり、その結果、SRS 局と電波天文局の間に必要となる離隔距離が 6km となったが、本件については、WP7D との Joint Session においても議論したいと考えている旨回答された。
 - イランより、(a)月の地表面(terrain surface on the Moon)について、WP3J から入手すべきとの考えは望ましくなく、(b)共用・両立性検討の結果に

については漠然としており、かつ様々な結果が得られているため、一つの検討結果により離隔距離等を決定することができないこと、検討結果の正当性を見極めることは難しいこと、実施された検討(共用でもなく、両立性でもない)の今後に関して決定すべきではないこと、について発言がなされた。

- さらに、イランより、RAS の運用に関する検討について、これまでのどの WRC 議題においても、RAS に関する共用・両立性検討は行われてこなかったこと、それは、RAS が国際的な認識を得るためには、notify(通告)を行うこととなっていたためであること、しかも通告は information purpose only であったこと、RAS に反対するつもりはなく、受信感度が高いことを全ての人間が認識するべきであることなどについて発言がなされた。

② WP7B 及び WP7D による合同審議

- WP7B 議長及び WP7D 議長より、本合同会議の目的について、議題 1.15 の検討をどのように進めるかについて、WP7B 及び WP7D の間で技術的観点から詳細な説明及び意見交換を行うことを目的として開催されることが説明された。
- 共用検討について (WP 7B)
 - WP7B 議長: in-band の検討においては、ITU-R 報告 RA.2188 に基づき RAS 受信へ損傷を与える可能性がある場合のみに限定して検討がなされることが説明された。また、out-of-band の検討においては、WP7D から供与された 1 通目のリエゾンに基づく方程式を使用して検討がなされていることが説明された。
 - また、WP7B 及び WP7D 間のオフライン議論にて、不要電磁波放射(UEMR)に関する検討は、議題1.15では取り扱わないことが説明された。
 - イラン: in-band においては ITU-R 報告を使用していることに懸念があり、out-of-band で使用されている公式は WP7D で合意を得ていないと指摘。
 - IUCAF: 使用している公式は、2024 年 9 月 WP7D において合意されたものをリエゾンにて送付している。RR22.22に基づく RAS 保護及び帯域外からの不要発射による干渉が考慮されなければならないことを主張。UEMR についても決議 680 にて言及されていることから、考慮すべきと発言。
 - ドイツ: 月面上の RAS 受信機に致命的な損傷を与える懸念があり、受け入れ可能な受信レベルについても現実的な値を検討する必要があることを主張。
 - 米国: 検討においては、帯域幅により異なる結果が得られることから、帯域幅をどの程度として想定するかを議論する必要があることを主張。
 - CRAF: RAS にとって致命的な干渉懸念があることから、議題1.15において検討が必要であることを主張。
 - イラン: 引き続き、out-of-band の検討に使用される公式の使用に強く反対。
- 電波天文への干渉閾値の明確化 (WP 7D)
 - CRAF: ①WP7D では RAS 受信機の閾値を定義する新勧告草案を作成中であ

ること、②帯域幅は電波天文の観測において現実的な帯域幅を想定していること、③月の夜の時間を考慮した積分時間が使用されていることについて説明。

- イラン:前述の CRAF 発言について、①作成中の新勧告草案を根拠とすべきではないこと、②調整を求める根拠が勧告草案であることから、BR による調整対象外ではと指摘。CRAF より RR22.25 に基づき調整が可能と考えている点が説明されたが、RR22.25 に基づくと調整可能とは読み取れないことを再度指摘。
 - ドイツ:新勧告草案はガイドラインとして作成していることを説明。
 - フランス:WG7D-3 にてこれらの Issue について議論する予定であり、保護基準及び公式についてはリエゾン文書にて説明することを提案。
 - イラン:リエゾン文書の送付は承知したが、作業量が膨大である WP7D 内にて確実に合意を得ることを求める。
- SZM における電波天文業務受信機を考慮した SZM 外からの意図的な送信源による干渉シナリオの取り扱い(WP 7B) (WP 7D)
 - WP7B 議長:WP7D 議長及び SWG 議長に対し、RR22.25 及び 22.22 について、主管庁間での調整に必要な干渉閾値及び許容可能な干渉レベルに関するガイドラインとしての勧告が必要なため、これに対処することを求める。具体的な主管庁間での干渉懸念の議論は、月面での電波天文局の通告がなされた後に実際に使用される局に対して行われるものであることを説明。
 - IUCAF:具体的なミッションが開始されるのを待たずして検討することは可能。また、帯域内の制限だけでなく帯域外の制限についても考慮が必要であることを指摘。
 - ドイツ:観測機器が月面に配置されれば、あらゆる方向から干渉を受けることとなる。技術的・規則的観点から SZM 内における干渉として対処しなければならないと考える。
 - イラン:「intentional interference」という文言の使用に反対。

③ 文書の審議

- 表題
 - イラン:作業文書の削除が提案されているが、作業の進捗を鑑みると作業文書のままとすべき。文書の格上げには強く反対する。
- 3.1 項
 - イラン:標準時の衛星通報業務(SFTSS)に関する追記について、WP7A からのリエゾンを受け取っていないため、当該項目を[]で囲むことを求める。
- 4 項
 - イラン:各 WP からのリエゾン文書の一覧表について、文書容量削減のため削除を提案

- WG7B-2 議長:削除が求められていることについて Editor's note として記載し、再度検討することとする。
- ANNEX1
 - イラン:A1.2.2.2 について、使用している公式を記載しているパートについて、他の類似する研究結果から参照しているのであれば不要のため、削除を求める。また、緊急ビーコンとは何か。定義が不明瞭である。A1.2.2.3 について、結論ではなく結果のサマリでは。また、動的解析とは具体的に何を指すか。これも定義が曖昧である。
 - 米国:タイトルを「Summary and analysis of results of Study」修正提案、「動的解析」という文言の削除提案。
 - WG7B-2 議長:上記提案内容を Editor's note として記載。
- ANNEX2～3
 - エディトリアルな指摘を除き、特段コメントなく更新が承認された。
- ANNEX4
 - 日本より、「A4.11.1.5 Summary and analysis of the results of Study A」に記載されている「mitigation measure」については必要ないこと、そのため、最後のパラグラフは削除した方がよいのではないかとの意見があったところ、CRAFより解析結果は問題ないが、解析の結果で得られた干渉値がRASの制限値と互換性がないため、記載を残してほしいとの発言があり、さらにフランスからも削除には反対であり、追加の干渉軽減措置が必要であること、同一周波数帯での共用検討にどのような保護基準が必要であるかわからないため、当該パラグラフはそのままにするべきとの発言があった。

本件はオフラインにて議論され、「Further studies on in-band case may be conducted.」の文言を加えることで合意された。
- ANNEX5～8
 - エディトリアルな指摘を除き、特段コメントなく更新が承認された。
- ANNEX9
 - CRAF:日本から指摘のあった最後のパラグラフについて、削除に同意、代わりに Editor's note を追記したい。P2のWP7DのSZMセッションに参加し、そこで更なる議論をしたいことを説明。
 - 日本:削除への合意には感謝するものの、WP7Dに参加する意義がわからない。「Further studies on in-band case may be conducted.」の文言を加えることのみ合意可能。
 - CRAF:引き続き in-band における受信機サチュレーションレベルを考慮した研究が必要と考える。Editor's note として代替文案を提示。
 - 日本:日本から提示した文案は Compromise した案である。本案が受け入れられないのであれば、研究結果自体の掲載に反対する。
 - 中国:日本に同意。オフラインにて議論したい。
- ANNEX10～12
 - エディトリアルな指摘を除き、特段コメントなく更新が承認された。

- 最終ページの研究の完了状況の表
 - イランからの指摘を受け、米国により各研究結果をとりまとめた比較表が作成され、追加された。

<審議結果>

寄与文書に基づき、ITU-R 新報告草案 SA[LUNAR 1.15 STUDIES] に向けた作業文書の更新を審議した。作業部会議長報告書に添付し、引き続き更新作業を継続する。

5.2.4. WRC-27 会合のための議題 1.15 の CPM 文章草案に向けた作業文書の作成

入力文書： 7B/192 ANNEX 2(WP 7B 議長)、7B/203(BR)、7B/215 (ブラジル)、7B/220(ドイツ)、7B/231(米国)

出力文書： 7B/TEMP/99

① 寄与文書紹介

- 7B/215(ブラジル)
 - 特段の意見無し
- 7B/220(ドイツ)
 - Method を周波数帯ごとではなく、1 つの Method に統合することを提案
 - 決議第 680 は取消しを提案
- 7B/231(米国)
 - Method は周波数帯ごと
 - UHF 帯については新決議を準拠
 - 決議第 680 は、月領域での宇宙研究を超えた将来的な周波数の需要について更新

② 文書の審議

- CPM テキスト全般について
 - 米国提案(7B/231)の作業文書から CPM テキスト案への格上げ提案に対し、イランが時期尚早として反対
 - オフラインでの議論により、Method は 1 つにまとめず周波数帯ごとの構成とすることとなった。決議第 680 は更新せず取り消し、新たな決議を検討する。
- 第3章(検討結果)について
 - イランが、共用・両立性検討の結果は、個々の検討結果と全検討の比較表が整備されるまで保留とする Editor's Note を要求。
 - イランは、第 3 章に、有効な ITU-R 勧告がない場合は ITU-R 報告の情報のみに基づく技術・運用特性を用いて共用・両立性検討は行われることの説明を要求。
 - 3.1 項に勧告が一覧されていることについて、イラン(Arasteh 氏)が、3 項にて

報告のみを使用していることから、勧告の使用の有無を確認。米国は、勧告は既存業務の特性情報に、報告は月領域の宇宙研究業務の特性に使用していることを説明。イランは 3 項の説明の訂正を主張し、既存業務の特性情報は勧告から参照されていることを追記。

- 各周波数帯の共用・両立性検討の結果において、イランは、マージン量の記載に反対し、保護基準を遵守していることのみの記載とすることを主張。米国は、次の会合で寄与文書にて代替案を検討することを提案したが、イランは寄与文書を送付する人的資源がないと合意せず。フランスは、単一干渉でのマージン量が総合干渉の結果の説明になっていることから、削除することで総合干渉の結論の説明が失われることを指摘。各検討結果のマージン量を背景色で識別し、暫定扱いとなった。
- 3.2.1.2 項のマージン 36.2 dB について、カナダは 7.1 dB であることを確認。米国は、7.1 dB は MSS へのマージンであり、本項は MS であることを説明。MSS の共用・両立性検討結果は、次回会合で追加することを説明。
- 3.2.1.3 項の表題を共用検討から両立性検討に変更する米国提案に、イランは、RAS は一次業務で、通告のみであり、最大レベルについての共用であって、両立性検討は行っていないことを主張し、反対。米国及びフランスは、隣接帯域の検討は両立性検討としていることがほとんどであるとの見解を述べ、月 SRS と RAS は周波数の重複がないことを説明。CRAF も両立性検討とすることを支持したが、イラン(Arasteh 氏)は、WP 7D では両立性検討には合意しておらず、帯域内も隣接帯域も共用検討であり両立性検討はないと主張し、反対を固持。米国の提案により暫定扱いとして後日議論。
- 3.2.2.2 項の MS の保護基準を PPDR の保護基準としていることについて、イランは、PPDR が MS のすべてではないと指摘。米国は、PPDR の保護基準が他の MS の基準より厳しいことを説明。補足を追記。
- 3.2.3 項にて作業文書を参照としていることにイランが反対。参照となるのは報告であり作業文書は不要であることを指摘。作業班議長は、現状作業文書であることを説明し、最終的には新報告となることから作業文書を削除。3.2.4 項も同様。
- 3.2.3.1 項にて、総合干渉での最悪ケースの干渉源が 1100 の送信機と導出していることについて、イランは、根拠が不明であると数値に疑義を呈し、確認を要求。米国は、単一干渉でのマージン量から算出した概算と説明。イランは、マージン量から最大干渉源数を換算することは聞いたことがないと指摘。編集者注記。
- 3.2.4.2 項の表題の両立性検討を共用検討への変更提案も暫定扱いとなった。
- 第4章(Method)及び第 5 章(規則)について
 - フランスから、決議 680 では SZM の外側のみで使うという限定が付されている 3 つの周波数帯について、どのようにこの限定が規則に反映されたのかと質問があり、議長及び米国から脚注案で規定していることが説明された。
 - ドイツ、米国及びブラジルからそれぞれエディトリアルなコメントがあり、より正確かつ簡潔にするための修正が行われた。また、ITU から分配表の修正方法について必要ならオフラインで説明するとコメントがあった。
 - 新決議について、ドイツから、resolves 1 が2つ重複しており、2つ目は内容的にも不要であるとコメントがあり、削除することになった。

<審議結果>

WRC-27 議題 1.15 の CPM テキスト案に向けた作業文書が更新された。CPM テキスト案に向けた作業文書は再び議長報告書に添付し、今後の共用検討の進捗を踏まえ、完成に向けて更新していく。

5.2.5. 貢献作業部会への WRC-27 議題 1.15 に基づく活動の進捗状況の連絡

入力文書： なし

出力文書： 7B/TEMP/95

<審議結果>

WRC-27 議題 1.15 に基づく WP 7B での活動の進捗状況を本議題の各寄与作業部会に連絡文書で連絡することとなった。

5.2.6. WG 7B-2 に割り振られた ITU-R 勧告 SA シリーズの確認

入力文書：

出力文書： なし

<審議結果>

WG 7B-2 に割り振られている ITU-R 勧告 SA シリーズの状況を確認した。

5.3. 地球探査衛星業務(EESS)及び気象衛星(MetSat)業務等

WG7B-3 にて議論された。Philippe Tristant 氏(フランス)が議長を務め、地球探査衛星業務(EESS)及び気象衛星(MetSat)業務等について審議した。

【主な検討案件と審議結果】

1. ITU-R 勧告 SA.514 改訂草案を更新した。
2. ITU-R 報告 RA.2488 改訂草案に向けた作業文書を更新し、草案に格上げした。
3. ITU-R 新報告草案 SA.[EESS_NGS 7-8GHz]に向けた作業文書を更新し、草案に格上げした。
4. WRC-31 暫定議題 2.10 及び 2.11 に関連して作成が提案されている新報告草案に向けた作業文書の要素2件を更新した。

5.3.1. ITU-R 勧告 SA.514 改訂草案に向けた作業文書の改訂作業

入力文書： 7B/192 Annex 6 (WP7B 議長)、217(ロシア)

出力文書： 7B/TEMP/88

- ITU-R 勧告 SA.514-3(地球探査衛星業務および気象衛星業務で運用されるコマンド及びデータ伝送システムの干渉基準)は、EESS と MetSat 業務の干渉基準を定める勧告である。最後の改訂が 1997 年 10 月であり、約30年間にわたり更新されていないことから、前研究会期に改訂の必要性が合意され作業を開始したものの、2021 年の会合以降入力文書がなく、勧告改訂草案に向けた作業文書が修正されないまま持ち越されてきた。2025 年 3 月の会合で WRC-27 議題 1.7(IMT 特定)で扱われる周波数帯における保護基準なども記載されている重要な勧告であり、改訂作業を再開するため改めて入力文書を募ることで合意した。
- 2025 年 9 月会合でも新たな寄与文書は提出されなかったことから、作業の継続の是非を含む今後の方針について議論した結果、改訂作業の主な内容であるシンプルなリンクバジェット情報の提供を容易にするため、テンプレートを提供することがロシアから提案され、作業文書を更新した(7B/192 Annex 6)
- 今回会合には、ロシアから、Annex 1「Basis for determination of interference criteria」として、7450-7550MHz に分配されている気象衛星業務(MetSat)用の静止衛星に関し、衛星変調方式、アンテナ径等を変更した4つのケースについて、代表的なリンクバジェットの検討結果を提示する寄与文書が提出された(7B/217)。
 - この提案について、米国からは示された値は例示であり、すべての MetSat/EESS リンクに適用される単一の干渉閾値を定義するものではないという注記を入れるべきであるとの意見と、米国側の計算と値が異なっていることが述べられた。これに対し、ロシアからは例示計算であることは理解しているが、最終目標は代表的リンクバジェットを用い、現状の勧告でカバーされていない周波数帯の保護基準を導出することであること、及びリンクバジェット検討の際に前提の違いで大きく値が異ならないよう、ワーストケースとして低仰角の場合を用いることに合意できれば比較が容易になるとの返答があった。
 - ロシアの提案を受け、Annex 1:Basis for determination of interference criteria に「Band 7450-7550MHz」の内容を追記したほか、オフライン協議の結果 2025 ~ 2110MHz、2200 ~ 2290MHz、7190 ~ 7250MHz、8175~8215MHz、及び 40~40.5GHz についてもプレースホルダーを設けて追記が必要な箇所を示した。また、Annex 2(Basis for sharing and coordination criteria)も新たに追加し、対象周波数帯ごとの見出しと[TBD]の表示のみを置いて情報提供を促した。

以上の議論を経て、修正された作業文書が作成された(7B/TEMP/88)。

- なお、EUMETSAT から、今回会合に向けてオフラインで GSO のリンクバジェットをまとめた文書を準備していたものの、送信が遅れたために今回の会合では入力文書として認められなかったことと、次回会合で改めて文書を提出する予定である旨が述べられた。当該文書は参考のため共有フォルダ上で共有された。

<審議結果>

- 議長報告に添付して持ち越された(7B/TEMP/88)

5.3.2. ITU-R 報告 RA.2488 改訂草案に向けた作業文書

入力文書: 7B/192 Annex 9(WP7B 議長)、208(日本)、212(インド)

出力文書: 7B/TEMP/86

- ITU-R 報告 SA.2488(EESS 及び MetSat 業務で運用されるシステムへの干渉評価及び共用検討に使用すべき特性)は、EESS 及び MetSat のシステムから及びこれらのシステムへの干渉の可能性を分析するために使用できる様々なシステムの運用特性をまとめたものである。
- 前回会合では我が国から、新たに 25.5-27GHz のシステムを追加するほか、一部のシステムのパラメータの更新を提案し、これらを反映した作業文書が持ち越された(7B/192 Annex 9)
- 今回会合では、我が国から Annex B と Annex C に新たに衛星の情報(Satellite BU (GOSAT-2))の諸元を追加する寄与文書を提出した。また、インドからも同様に自国の衛星の諸元を追加する提案が提出された(7B/212)。これらを統合した作業文書を作成し、日本がリードしオフライン協議(メール)を行い、TEMP 文書案を作成した。
- ESAから、含まれる衛星の数が増加しているが非常に類似した特性も多く、Space Explorer や MIFR のようなデータベースの抜粋のようになっており、本文書の当初の目的が失われているとの懸念が表明され、衛星毎の詳細リストではなく代表的特性やパラメータ範囲をまとめる必要性が提起された。この課題については、次回会合で検討できるよう、ESAが作成した Editor's Note が追加された。
- 我が国からは、EESS や MetSat の特性は ITU-R 勧告によって提供されているものもあることから、本文書を勧告化する可能性について提起した。これに対し、SG7 議長からは本文書には X バンド関連の情報が多く含まれているため、性急に勧告化を進めると WRC 議題 1.7 における議論への反応という印象を与える可能性があるとの懸念が示され、これを避けるため WRC-27 が終了するまでは優先度が低い議長報告添付文書としておいたほうがよいとの見解が示された。
- 本文書については 2027 年に完成させることを視野に作業を進めてきたことから、完成時期についての議論は結論に至らなかったが、今回会合で勧告改訂草案に格上げを提案することで合意し、タイトルの Working Document Towards を削除する提案とともにプレナリに上程した。

<審議結果>

- 次回会合に持ち越すことで合意したが、プレナリでの審議では明示的に作業文書から草案への格上げについて確認されなかった(7B/TEMP/86)。ただし、議長報告の添付文書(7B/237 Annex 6)では改訂草案のステータスで持ち越されている。

5.3.3. ITU-R 新報告草案 SA.[EESS NGS 7-8GHz]に向けた作業文書

入力文書: 7B/192 Annex 5(WP7B 議長)、221 (ドイツ、フランス)、233 (米国)

出力文書: 7B/TEMP/94

- 7190-8400MHz 帯で運用する地球探査衛星業務用の衛星システムの発展に関する ITU-R 新報告草案 SA.[EESS NGS 7-8GHz]に向けた作業文書は、7190-7250MHz 帯及び8025-8400MHz 帯について ITU-R 報告 SA.2488(EESS 及び MetSat 業務で運用されるシステムへの干渉評価及び共用検討に使用すべき特性)には含まれていない EESS の動向をまとめる ITU-R 報告として、2024 年にフランスとドイツの共同提案を受けて策定作業が開始された。当初は 7-8GHz で運用される非政府系の EESS 衛星システムに関する情報をまとめる文書として提案さ

れたが、2025 年 3 月会合では政府系・非政府系の区別を止め、タイトルも修正された。

- 前回会合では、原提案者であるドイツ/フランスに対し、米国から非通信関連情報が多いこと、例えば ITU-R 勧告 SA.2488 などの既存文書に含まれる従来の EESS システムとの区別が分かりにくいこと、タイトルで示されている周波数の範囲は実際には通信の方向が指定されているがそれが明示されていないことなど、の懸念が示され、Editor's Note をつけて議長報告に添付された(7B/192 Annex 5)。前回会合で新報告草案に格上げすることがWGで合意されたが、プレナリであらゆる文書の格上げに反対するとの動きがあったことから本文書も作業文書のまま持ち越された。
- 今回会合では、ドイツ/フランス(7B/221)及び米国(7B/233)から、作業文書の修正案が提出された。ドイツ/フランスの寄与文書では、周波数帯を明確化する修正を行ったうえで、前回合意されなかった新報告草案への格上げを提案しているが、前回米国が指摘した ITU-R 報告 SA.2488 との差別化は引き続き Editor's Noteに残されていた。米国の寄与文書も類似の修正を提案し、さらに気候変動や国際機関に関する取組の削除、資源探査の追加など米政権の政策を反映した内容となっていた。
 - 米国の寄与文書について、ドイツとフランスからは、3.3 項で、EESS 帯域を拡大することの重要性を説明したテキストが、実際のデプロイメントが存在しないという理由で削除されている点について懸念が表明され、スクエアブラケットとすることが提案された。
 - 7190-7250MHz に関し RR No.5.460A を脚注に引用する米国案に対し、フランスから、報告冒頭の脚注に単に引用するのは不自然であるとの指摘については、米国から次回会合で改善するとの方針が示され合意された。
- 両寄与文書による提案と議論を反映したTEMP文書文書ステータスは新報告草案へと格上げした上で議長報告に持ち越す文書として WP7B プレナリに提出することで合意した。

<審議結果>

- プレナリの審議において新報告草案への格上げに合意し、議長報告に添付して持ち越すことになった(7B/TEMP/94)。

5.3.4. WRC-31 暫定議題 2.10 及び 2.11 に関連して作成が提案されている新報告草案に向けた作業文書

入力文書: 7B/192 Annex 7、8(WP7B 議長)、224(ESA)、225(ESA)

出力文書: 7B/TEMP/85、87

- 2025 年 3 月会合において、ESA の提案に基づき WRC-31 暫定議題のうち以下の 2 件の暫定議題について、ITU-R 新報告策定に向けた補助資料の要素文書が作成され、前回会合でもこれを更新して「新報告作成の補助のための作業文書(新報告作成の補助のための作業文書)」として議長報告に添付して持ち越された。WRC-31 暫定議題は優先課題ではなく、参考という扱いであることから、詳しい議論は行われなかった。
 - ITU-R 報告 SA.[EESS UPLINKS-23GHZ]作成の補助資料に向けた作業文書(WRC-31 暫定議題 2.10(22.55-23.15GHz 帯における EESS(地球か

ら宇宙)への新規 1 次分配の可能性の検討)(7B/192 Annex 8)

- ITU-R 報告 SA.[EESS-DOWNLINKS-37.5 TO 52.4 GHz]作成の補助資料に向けた作業文書(WRC-31 暫定議題 2.11([37.5-40.5GHz]帯における地球探査衛星業務(宇宙から地球)の 2 次分配への格上げ、または[40.5-52.4GHz]帯のある周波数における地球探査衛星業務(宇宙から地球)への新たな世界的 1 次分配の可能性の検討)(7B/192 Annex 7)
- WRC-31 暫定議題 2.10 に関連して、ESA から要素文書への加筆・修正を提案する寄与文書が提出された(7B/224)。
 - ESA の寄与文書に対し、米国からは現状では暫定議題は優先課題ではないとの前提を理解した上で、固定業務の諸元が WP5C の最新の指針を反映していないこと、移動業務のシステムに関する情報がないとの記述があるが、実際には概ね固定業務と同様であることなどが指摘された。ただし、WRC-31 暫定議題は優先的に行うトピックではないとの前提で、作業を進めることは支持するとの立場であった。
 - この指摘を受けて WG 議長からは、WP5C など関連 WP に対して最新情報を提供するように依頼するリエゾン文書の送付が提案されたが、現在ほとんどの WP が WRC-27 議題に関する CPM テキスト案等の作成で多忙であることが予想されるなどとして ESA、米国、SG7 議長からは現時点でのリエゾン文書送付には慎重な意見が多く出されたことから、WG7B-3 で検討を進め、CPM テキスト案の提出期限後にリエゾン文書送付を改めて検討することとし、リエゾン文書の送付は見送られた。
 - ESA の寄与文書を反映した要素文書が改めて作成され、議長報告に添付して持ち越すことで合意された(7B/TEMP/85)
- WRC-31 暫定議題 2.11 に関連して、ESA から要素文書への加筆・修正を提案する寄与文書が提出された(7B/225)。本文書については、米国から前項目で扱った 7B/224 よりもやや散漫な印象を受けるとして、共用検討に関する分析を含めるなど内容を深める必要があるとの指摘があり、米国がオフラインで ESA と協議することになった。ESA の寄与文書を反映した要素文書が改めて作成され、議長報告に添付して持ち越すことで合意された(7B/TEMP/87)
- 両文書について、現時点では他 WP へのリエゾン文書を見合わせた経緯を踏まえ、技術・運用特性は暫定的であり今後関連 WP と連絡を取る必要がある旨の Editor's note を追加することになった。

<審議結果>

- いずれの文書についても、「新報告作成の補助のための作業文書」として議長報告に添付して持ち越すことで合意した(7B/TEMP/85、87)

5.3.5. WG7B-3 が担当する ITU-R 勧告の見直し

入力文書: 7B/192 Annex 11

出力文書: 7B/TEMP/97

- 各 WP が管理している ITU-R 勧告の現状について、毎回の会合で見直しを行うこと

が要請されている。これに従い、本 WG に割り当てられた勧告²のステータスを確認し、次の加筆・修正を行った。

➤ 見直しが必要である可能性を記載

- ◇ ITU-R 勧告 SA.1159(EESS および MetSat 業務のデータ伝送システムの性能基準):ITU-R 勧告 SA.514 の改訂の議論において、本勧告の改訂の可能性が示唆されたことを反映。
- ◇ ITU-R 勧告 SA.1258(MetSat、EESS、及び気象補助(MetAids)業務の 401～403MHz 帯の周波数共用):現行の版が作成されたのは 1999 年であり、記載されている MetSat システムは現在も運用されているので有効だが、次世代システムについても有効であるかの見直しが必要であるとの認識を反映して追記。
- ◇ ITU-R 勧告 SA.1273(2025～2110MHz 及び 2200～2290MHz 帯の固定業務を保護のための SRS、SOS、及び EESS からの pfd レベル):本勧告に記載されている pfd 制限は RR で記載されているため、重複しているのであれば勧告は廃止できるとの意見を反映し、見直しの必要性について追記。

<審議結果>

- 他 WG の結果と統合し、議長報告に添付して持ち越された(7B/TEMP/97)

5.4. プレナリで審議された項目

今回合会においては、いずれも WG7B-2 が担当する作業項目について、いずれも実質的な作業が不要であることと、負荷の軽減のため、プレナリで審議された。

【主な検討案件と審議結果】

1. 宇宙研究に関する通信ハンドブック(Handbook on Space Research Communication)改訂案を承認し、SG7 に上程した。
2. ITU-R 新報告草案 SA.[FUTURE LUNAR COMMUNICATION AND SYSTEMS STUDY]に向けた作業文書を更新した。

5.4.1.宇宙研究通信ハンドブックの改訂

入力文書: 7B/192 Annex 12(WP7B 議長)、204(中国)、211(インド)

出力文書: 7B/TEMP/96

- 宇宙研究通信ハンドブックは、SRS が関与する無線通信業務間の干渉を最小限に抑えるという目的の元、SRS の周波数管理の側面を主に扱う ITU-R ハンドブックで、初版は 2002 年、第二版は 2014 年に発行された。
- 前回合会で、日本、インド、米国、ESA 及び中国の提案に基づき Attachment 3(宇宙探査ミッション(Space exploration missions))の自国ミッション情報を更新、追加したほか、ハンドブックの改訂履歴、前書き(foreward)などを更新した版が作

² 原則として ITU-R 勧告を扱うが、作業中の勧告に関連する報告がリストに追加されている場合がある(例:ITU-R 報告 SA.2488)

成されプレナリでの承認が諮られたが合意を得られず、今回会合に判断が持ち越された(7B/192 Annex 12)。

- 今回会合には中国(7B/204)及びインド(7B/211)が Attachment3 に掲載する自国ミッション情報を追加・更新する提案を提出した。それぞれ自国の情報であることから、寄与文書はプレナリで紹介され、これらを反映した TEMP 文書が作成された。

<審議結果>

- 特段の議論はなく、ハンドブックの改訂案は承認され、SG7 に上程された(7B/TEMP/96)

5.4.2.ITU-R 新報告草案 SA.[FUTURE LUNAR COMMUNICATION AND SYSTEMS STUDY] に向けた作業文書

入力文書: 7B/192 Annex 4(WP7B 議長)、229(米国)

出力文書: 7B/TEMP/91

- 本文書は、WRC-27 議題 1.15 に関連して、決議第 680(WRC-23)の invites the ITU Radiocommunication Sector 2 に基づき (1)宇宙研究を超えた将来の月近傍活動のための無線通信のニーズ、(2)これに関連する無線通信業務の検討、(3)既存の規制が十分であるかどうかについて取りまとめる新たな文書の提案として、前回会合で米国が提案して新たに作業文書が作成された。
- 今回会合においては、米国から作業文書に、前回 TBD となっていたシナリオ 3(月面におけるバイオ製造／バイオリアクター施設における通信要件)を追記する提案が提出された(7B/229)。この提案に対しては、イランが文書の冒頭に「本文書は議論されておらず、合意がない」旨を追記することを要望したため、注記が追加された形で TEMP 文書が作成された。
- また、本文書は WRC-27 議題 1.15 関連であるため実際の担当は WG7B-2 であるが、今回会合においては寄与文書が 1 件しかないことなどからプレナリに割り当てられた。ESA からは今回の会合ではその通りで異論はないが、次回会合では WG7B-2 において審議し、決議 680 の CPM テキストでの扱いについても合わせて議論したいとの意見が述べられ、了知された。

<審議結果>

- 寄与文書と会合中の議論を反映した注釈を追加し、作業文書のステータスで議長報告に添付し持ち越された(7B/TEMP/91)。

表 5 WP7B への入力文書一覧

文書番号 7B/**	提出元	題目	担 当 WG/SWG
192 + Annex 1-12	Chair, WP 7B	Report of the meeting of Working Party 7B (Geneva, 16-25 September 2025)	Plenary
	Annex 1	Sharing studies of space research systems for lunar operations under WRC-27 agenda item 1.15	7B-2
	Annex 2	Working document towards preliminary draft CPM text for WRC-27 agenda item 1.15	7B-2
	Annex 3	Revised work plan for WRC-27 agenda item 1.15 and Resolution 680 (WRC-23)	7B-2

	Annex 4	Working document toward preliminary draft new Report ITU-R SA.[FUTURE LUNAR COMMUNICATION AND SYSTEMS STUDY] - Radiocommunication needs for future lunar vicinity activities beyond space research and consideration of associated radiocommunication services and sufficiency of existing regulatory provisions	Plenary
	Annex 5	Working document towards a preliminary draft new Report ITU-R SA.[EESS NGS 7-8GHZ] - Evolution of Earth exploration-satellite service systems in the frequency range 7 190 to 8 400 MHz	7B-3
	Annex 6	Working document toward a preliminary draft revision of Recommendation ITU-R SA.514-3 - Interference and sharing criteria for command and data transmission systems operating in the Earth exploration-satellite and meteorological-satellite services	7B-3
	Annex 7	Working document in support of possible ITU-R SA.[EESS-DOWNLINKS-37.5 TO 52.4 GHZ] - Potential future EESS (space-to-Earth) in the frequency range [37.5-52.4 GHz]	7B-3
	Annex 8	Working document in support of possible Report ITU-R SA.[EESS UPLINKS-23GHZ] - Potential future EESS (Earth-to-space) in the 22.55-23.15 GHz band	7B-3
	Annex 9	Working document towards a preliminary draft revision of Report ITU-R SA.2488-0 - Characteristics to be used for assessing interference to systems operating in the Earth exploration-satellite and meteorological-satellite services, and for conducting sharing studies	7B-3
	Annex 10	Preliminary draft new Recommendation ITU-R SA.[2.0 GHZ SRS & EESS CHAR] - Technical and operational characteristics of the space research service and Earth exploration-satellite service systems in the 2 025-2 120 MHz frequency band to be used for assessing interference and for conducting sharing and compatibility studies	7B-1
	Annex 11	Review of Recommendations under the purview of Working Party 7B	All WG
	Annex 12	The draft revision of the Handbook on Space Research communication	Plenary
193	WP 7D	Liaison statement to Working Party 7D - Threshold levels of interference to radio astronomy in the shielded zone of the Moon	7B-2
194	WP 7C	Liaison statement to Working Parties 4A, 5A, 5C, 5D and 7B - EESS (passive) studies in the 6 425-7 250 MHz range	7B-1
195	WP 5D	Reply liaison statement to Working Party 7B - Coordination between space research service (deep space) stations operating in the band 7 145-7 190 MHz and IMT stations operating in the band 6 425-7 125 MHz	7B-2
196	WP 4C	Reply liaison statement to Working Party 7B regarding relevant technical information to support studies under WRC-27 agenda item 1.15 - Technical information on RDSS in the 2 483.5-2 500 MHz band	7B-2

197	WP 4C	Reply liaison statement to Working Party 7B regarding calculations on overlaps between WRC-27 agenda items 1.11, 1.13 and 1.15 – WRC-27 agenda items 1.11, 1.13 and 1.15 sharing studies	7B-2
198	International Civil Aviation Organization	ICAO position for the ITU WRC-27	Plenary/ 7B-2
199	WP 4C	Reply liaison statement to Working Party 7B – Studies on WRC-27 agenda item 1.13	7B-1
200	WP 4A	Reply liaison statement to Working Party 7B – Technical and operational characteristics of FSS/BSS systems for sharing and compatibility studies on WRC-27 agenda item 1.15	7B-2
201	WP 5C	Reply liaison statement to ITU-R Working Party 7B (copy for information to Working Parties 4A, 4C and 5B) – Relevant technical information to support studies under WRC-27 agenda item 1.15	7B-2
202	WP 5B	Reply liaison statement to Working Party 7B – Sharing and compatibility studies between space research service (space-to-space) and radiolocation service under WRC-27 agenda item 1.15	7B-2
203	Director, BR	Further information on the use of the Conference Proposal Interface (CPI) for the preparation of examples of regulatory texts for the draft CPM Report to WRC-27	Plenary/ 7B-2
204	China	Proposal for update on the draft revision of the Handbook on space research communication	Plenary
205	China	Proposed modification to working document towards a preliminary draft new Report ITU-R SA.[LUNAR 1.15 STUDIES] – Sharing studies of space research systems for lunar operations under WRC-27 agenda item 1.15	7B-2
206	Japan	Proposed liaison statement to Working Party 4C concerning studies on WRC-27 agenda item 1.13	7B-1
207	Japan	Proposed modifications to working document towards a preliminary draft new Report ITU-R SA.[LUNAR 1.15 STUDIES]	7B-2
208	Japan	Proposal for update on working document towards a preliminary draft revision of Report ITU-R SA.2488-0 – Characteristics to be used for assessing interference to systems operating in the Earth exploration-satellite and meteorological-satellite services, and for conducting sharing and compatibility studies	7B-3
209	Korea (Rep. of)	Calculation of interference from lunar orbit satellite to a terrestrial component of IMT in frequency bands overlapped by WRC-27 agenda items 1.15 and 1.7	7B-2
210	India	Additional system characteristics and protection criteria of RDSS in the 2 483.5-2 500 MHz band for sharing and compatibility studies in preparation for WRC-27 agenda item 1.15	7B-2
211	India	Proposed modification to the draft revision of the Handbook on space research communication	Plenary

212	India	Proposed modifications to working document towards a preliminary draft revision of Report ITU-R SA.2488-0	7B-3
213	Russian Federation	Proposals for working document towards a preliminary draft new Report ITU-R SA.[LUNAR 1.15 STUDIES] with respect to sharing and compatibility studies with fixed satellite service in the 3 500-3 800 MHz frequency band	7B-2
214	Russian Federation	Proposals for working document towards a preliminary draft new Report ITU-R SA.[LUNAR 1.15 STUDIES] with respect to sharing and compatibility studies with radiolocation service in the 420-450 MHz frequency band	7B-2
215	Brazil	Updates to the working document towards preliminary draft CPM text for WRC-27 agenda item 1.15	7B-2
216	Brazil	Information document – Committee on the Peaceful Uses of Outer Space: 2025 – 68 th session (25 June to 2 July 2025) – Space sustainability issues	Plenary
217	Russian Federation	Proposals for the working document toward a preliminary draft revision of Recommendation ITU-R SA.514-3	7B-3
218	Committee on Radio Astronomy Frequencies	Proposed modifications to the working document towards a preliminary draft new Report ITU-R SA.[LUNAR 1.15 STUDIES] – Sharing studies between the radio astronomy service (RAS) and SRS operating in the frequency bands 390-406, 2 483.5-2 500, and 7 190-7 235 MHz	7B-2
219	World Meteorological Organization	Preliminary position on WRC-27 agenda	Plenary
220	Germany	Working document towards preliminary draft CPM text for WRC-27 agenda item 1.15	7B-2
221	Germany, France	Proposed modifications to the working document towards a draft new Report ITU-R SA.[EESS NGS 7-8 GHZ]	7B-3
222	European Space Agency (ESA)	Proposed revision of the preliminary draft new Recommendation ITU-R SA.[2.0 GHZ SRS & EESS CHAR] – Technical and operational characteristics of the space research service and Earth exploration-satellite service systems in the 2 025-2 120 MHz frequency band to be used for assessing interference and for conducting sharing and compatibility studies	7B-1
223	European Space Agency (ESA)	Proposed preliminary draft revision of Recommendation ITU-R SA.2169-0 – Technical and operational characteristics of the space operation service (SOS) systems that use the 2 025-2 110 MHz (Earth-to-space) (space-to-space) and 2 200-2 290 MHz (space-to-Earth) (space-to-space) frequency bands for use in assessing of interference and for conducting sharing studies	7B-1
224	European Space Agency (ESA)	Working document in support of possible Report ITU-R SA.[EESS UPLINKS-23 GHZ] – Potential future EESS (Earth-to-space) in the 22.55-23.15 GHz band	7B-3

225	European Space Agency (ESA)	Working document in support of possible ITU-R SA.[EESS-DOWNLINKS-37.5 TO 52.4 GHZ] – Potential future EESS (space-to-Earth) in the frequency range [37.5-52.4 GHz]	7B-3
226	Canada	Potential interference to COSPAS-SARSAT from lunar communications	7B-2
227	France	Proposed changes to working document towards a preliminary draft new Report ITU-R SA.[LUNAR 1.15 STUDIES] – Sharing studies of space research systems for lunar operations under WRC-27 agenda item 1.15	7B-2
228	United States	Working document toward preliminary draft new Report ITU-R SA.[FUTURE LUNAR COMMUNICATION AND SYSTEMS STUDY] – Radiocommunication needs for future lunar vicinity activities beyond space research and consideration of associated radiocommunication services and sufficiency of existing regulatory provisions	Plenary
229	United States	Preliminary draft new Recommendation ITU-R SA.[2.0 GHz SRS & EESS CHAR] – Technical and operational characteristics of the space research service and Earth exploration-satellite service systems in the 2 025-2 120 MHz frequency band to be used for assessing interference and for conducting sharing and compatibility studies	7B-1
230	United States	Preliminary draft revision to Recommendation ITU-R SA.2169 – Technical and operational characteristics of the space operation service (SOS) systems that use the 2 025-2 110 MHz (Earth-to-space) (space-to-space) and 2 200-2 290 MHz (space-to-Earth) (space-to-space) frequency bands for use in assessing of interference and for conducting sharing studies	7B-1
231	United States	Working document towards preliminary draft CPM text for WRC-27 agenda item 1.15	7B-2
232	United States	Working document towards a preliminary draft new Report ITU-R SA.[LUNAR 1.15 STUDIES] – Sharing studies of space research systems for lunar operations under WRC-27 agenda item 1.15	7B-2
233	United States	Preliminary draft new Report ITU-R SA.[EESSENGS 7-8 GHZ] – Evolution of Earth exploration-satellite service systems in the frequency range 7 190 to 8 400 MHz	7B-3